

宮城県石巻市・震災復興学習支援 レポート⑩

私塾ネット 出前寺子屋「漢検合格講座」

石巻で覚えた言葉は「福興」。福興に絆ふかまる年新た

◆活動報告その⑩[2012年1月8日]

平成24年1月8日、新年を迎え震災から10カ月が経過しようとしている。8月16日以降月2回のペースで訪れている石巻は、この日も真っ青な空が広がっていた。東北地方とはいえ太平洋沿岸に位置し、南に石巻湾を望むこの地は、冬の季節にも比較的過ごしやすい気候に恵まれている。北上川の水運と太平洋の海の幸は、古来よりこの町に繁栄と富をもたらしてきた。震災前の人口は162,000人余りで仙台につぐ県内第二の都市である。ところが大地震と津波により、現在の人口は153,000人余と約9,000人減少している。

今、石巻は塗炭の苦しみの中にある。市の経済を支えた水産加工業がほぼ壊滅の状態なのである。地盤沈下がはなはだしく波止場を満潮が洗うが、石巻漁港は再開した。しかし肝心の加工場が復興していないため、基幹産業の水産加工業が機能していないのだ。加工場が集まる魚町や湊町周辺は、いまだ破壊された工場建屋の骨組みを残したままである。

我々が出前寺子屋を開設している仮設開成団地は、第1～第11団地からなる被災3県でも最大の仮設住宅で、入居戸数は約1100世帯を数える。1月7日放映のNHKスペシャルでは、開成団地取材し居住者アンケートを公開した。回答を得た759世帯によると、年金生活者を除く497世帯のうち「震災で仕事を失った」のは235世帯に上り、47%が失業状態だという。また、失業状態にある世帯の34%は、失業給付などを合わせても1カ月の収入が10万円に満たない厳しい生活を強いられているのだという。しかしながら、現地でお会いする人々の表情は思いのほか明るい。復興を信じ日々を暮らしておられるのだ。東北人の気質なのか、なにしろ寡黙にして辛抱強いのである。そんな講習生の皆さんと一緒にするたびに、我々の使命は「家庭学習の復興」の支援であると改めて実感する。

さて10回目のスクーリングには、26名の受講生の方々が寒風をものともせず出席した。支援スタッフは5名で、AIMから谷村志厚、和枝そして講師の稲本詩織。そしてエリア関東代表の仲野十和田先生は待望の初参加、神奈川から中村直人先生は2度目の応援である。

今回は仲野さんという名ドライバーを得たので、仙台からレンタカーで石巻入りとなった。連休中とあって渋滞が懸念されたが、以外にもスムーズな運行で余裕を持って石巻市内に入った。まず恒例により被災地のシンボル門脇小学校へ車を進ませる。大晦日のNHK紅白歌合戦では、長淵剛がこの小学校校庭からライブ出演を敢行した。素晴らしい歌唱とライトアップの演出で、門脇小学校の惨状を知る者に、たいへん深い感銘を残した。その影響であろう、この日の小学校には多くの旅行者が訪れていた。ところが校庭入口には教育委員会の名で進入禁止の立て看板が、警備犬を連れたガードマンまで立っている。休日だけの対応かもしれないが、なにやらものものしいことになったものである。

午後2時、今回は2つのセレモニーからスクーリングが始まった。まず、昨年11月に募集した「2011年今年の漢字」で「絆」を投票された3人の方に、ごほうびとして図書カードを差し上げた。続いて小中学生のみなさんに、新年のお年玉として図書カードを贈呈した。これには谷村が馴染みとしている飲食店から託された支援金(ペットボトル募金)をあてた。店主が宮城県出身とあって、我々の活動に共感し応援してくれているのである。思いがけないプレゼントに、皆さんは驚きそして素直に喜ばれていた。

この日の出席者は全員2月検定の受検者であったので、過去問題を使った模擬テスト



ごほうびのプレゼンターは中村直人先生。

出前寺子屋 in 石巻「漢検合格講座」の仕組み

活動期間：2011年8月16日～2012年2月4日

- ①スクーリング(漢検学習・小中学生には学習指導も同時実施)
8月16日、9月4日、18日、10月2日、16日、11月5日、20日、12月11日、24日、1月8日、22日、2月4日
(いずれも14:00～16:00)
- ②会場 仮設開成ささえあい拠点センター集会所
- ③漢検受検
平成23年度第3回検定2012年2月4日
(平成24年度第1回検定2012年6月9日)
- ④受講対象者 仮設住宅、借上げ住宅等に居住する被災市民
- ⑤受講者特典
・教材費・スクーリング受講費・検定料の全額が無料

を実施した。一般の方は自己採点し支援スタッフが得点を集計、小中学生はスタッフが採点、集計を担当した。この日のトピックスは、準2級受検の小学6年生M君の成績であった。なんと190点(200点満点)の高得点で、合格間違いなしの結果である。これは6月には2級まで進むか!なんとも未恐ろしい、否、楽しみなことである。

今回26名の受検者の多くは、11月検定合格者が上位の級を狙うパターンである。したがって準備の時間が少々物足りないのが現状であった。ことに準2、2級といった上位の級ではその影響が大である。今回の結果から、いまのところ7割の方の合格は見込める。だが合格率を上げるには、これから3週間の取組み次第であろう。



お爺ちゃん注視のもと、準2級に挑戦するM君。期待が高まる。



合格圏内の成績に大喜びの母娘。



仲野先生もアレンジメントに挑戦。

いつもの通り、講座の仕上げの課外授業はフラワーアレンジメントである。担当の和枝さんは、シンプルな2つの基本花型を指導した。講習生の皆さんは手慣れたもので、スイスイとこなし、いつものように笑顔いっぱいでお帰りになられた。

報告：谷村志厚
(AIM学習セミナー)

23年度第2回漢字検定合格者内訳

2級 - 2名、準2級 - 2名、3級 - 8名、4級 - 3名、6級 - 1名、7級 - 1名 (小中学生7名、一般10名)

23年度第3回漢字検定受検者予定者26名内訳

2級 - 5名、準2級 - 10名、3級 - 4名、4級 - 1名、5級 - 5名、6級 - 2名、7級 - 1名 (小中学生9名、一般17名)

ご支援ありがとうございます

当活動は支援参加者個人の負担と、ご援助をいただいた皆さんの浄財で運営しております。10月23日以降12月31日現在で134,000円の献金をいただきました。ありがとうございます。引き続き応援をお願いします。

主催：全日本私塾教育ネットワーク(略称・私塾ネット)